令和５年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト（県立朝霞高等学校　全日制課程）

目指す学校像	より高い学力を身につけ、心豊かで社会性のある自立した生徒を育成し、進路希望を実現する。
重 点 目 標	１「新学習指導要領」実施に対応した授業改善を行い、生徒の学力を向上させる。 ２ 生徒に授業・家庭学習及び進路学習に積極的に取り組ませ、希望する進路を実現させる。 ３「コミュニケーション能力」と「物事に主体的に取り組み、考える力」を向上させる。 ４ 保護者・中学生とその保護者・地域に向けて積極的に学校の教育活動を情報発信する。

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不 十 分	（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
	学校関係者	7名
	生　徒	7名
	事務局（教職員）	14名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年　度　評　価（　Ｒ６年　１月　１１日 現在　）			実施日Ｒ６年　１月　２６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	□現状　コロナ対応を踏まえた学習保障について引き続き追求している。 ・新課程が実施され、各教科中心に協働的な学習などが拡大している。ﾀﾌﾞﾚｯﾄ使用に向け、課題整理、対応が始まっている。 □課題　コロナ後の未知の対応が求められる。	・コロナ対応を前提にした、生徒の「学びの保障」 ・新課程の実施を踏まえて、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ使用、授業、学習評価等の改善について、共通理解の促進、具体化推進。	・感染症はじめ危機管理対応と、年間計画との適切な調整に備える。 ・機材の充実、家庭環境等に配慮しながら、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ等ICTの効果的な学習への活用および、主体的かつ協働的な学びを模索し思考・判断・表現に関わる授業改善を進める。 ・教職員間で新課程の実施にかかる課題や学習評価等の情報共有を進め、共通理解を生徒・保護者にも着実に形成し広めていく。	・授業アンケート等から授業外学習時間状況、授業改善のとりくみへの意見などを集約し評価する。 ・新課程実施、ICT活用、授業改善のとりくみ、学習評価等の共通理解について、教科会、研修会などを通じた情報意見集約の状況から評価する。	コロナ後の混乱はなく、生徒の意識も「不安なし」が九割超え。インフルエンザ流行もあったが、教務・保健や年次連携で対応できている。 ﾀﾌﾞﾚｯﾄが１年次に導入され、生徒の受けとめも九割以上肯定的。上級生も ICT 活用に七割肯定的である。各教科からも ICT を利用した授業が増加していることが報告されている。また、効果的な学習への活用や主体的・協働的な学びを目指した授業公開と研修が実施された。 生徒の授業理解・集中も３年次で高まり、２年次では学習や考査の振り返りが進んでいる。	A	各教科を中心に主体的･協働的な学びを進める授業改善、ICTを活用した授業改善を着実に進める必要がある。一方で総合的な探究の時間については、削られるものについての対応や調整も求められる。 施設面で昨年記述したWiFiについては簡易ルーターは入ったが、未だ不十分。ICTについては、その業務が大きな負担となっており、人的保障が求められる。	感染症等の対応と生徒の安心感について評価できる。 生徒アンケート授業理解について保護者から質疑があり意見交換された。 主体的・協働的な学びによる考える力の育成やICTの効果的活用の広がりについて評価できる。さらなる進展を求めつつも、ICTについては、負の面の注意や環境整備および担当の負担軽減、外部人材の活用など県に要望したい。
2	□現状　工夫した進路行事や模試の校内実施などにより、各年次の取組や生徒の進路希望実現状況はコロナ以前より前進してきている。 □課題　早い段階からのきめ細かい進路指導と、一般入試を追求する生徒を育てること。希望実現に強い意志を持つ生徒を支援する体制の維持拡充。	・コロナ後の進路情報の収集と適切・的確な進路計画の推進 ・早い段階からのきめ細かい進路指導と、主体的に進路を考える生徒の増加。 ・進路実現に向けて補習の充実。	･生徒の希望および生徒の家庭状況に十分配慮しながら、学校内外の各種進路行事を適切・的確に推進し、各年次の生徒個人別進路ファイル等を活用して進路意識の向上を図る。その上で総合型選抜入試等の有効活用、および一般入試を追求する生徒増を目指して、生徒の主体的な行動を促す。 ･生徒の負担に配慮しつつ進路意識醸成により、授業外学習を促進するとともに、補習授業を充実させる。 ･進路希望実現に資する進路情報収集と進路資料充実を図る。	・生徒の希望に沿った適切な進路指導と進路意識の向上、および授業外学習の定着が図れたか。 ・アンケート、個人別進路ファイル等生徒の学習計画把握から評価する。 ・補習の開講・参加状況から評価する。	年次・教科の教員による指導や進路行事を通じて進路意識が高まり、年次の体制づくり等もあって自習室や「進路カフェ（学習スペース）」の利用が大幅に増えた。 教員全体での小論文や面接の指導等が効果的に実施され、総合型選抜、学校推薦型入試受験者の希望に応えられた。ガイダンス等を通じての指導により一般受験希望者も大幅に増加した。 授業外学習では３年次で増加傾向、低学年で維持または微減。進路のとりくみ全般でも同様の傾向が見られる。	A	進路意識は高学年で高い状況があるが、低学年で具体的行動にまで発展していない現状もある。特に授業外学習の現状については、低学年で生徒の進路意識と学習時間増および成績が結びついていないとの認識が年次の教員にはある。進路意識向上を具体化する補習拡充を検討したいとする年次もある。 進路室周辺で生徒が利用できる恒常的ネット環境整備が求められる。	ガイダンス実施など進路指導体制を構築し、生徒の自己実現により沿った指導ができている。進学指導の評価は生徒・保護者ともに高い。さらに、入試形態別指導重視とともに、将来の職業選択や生き方を見据えた指導に期待したい。 低学年での「授業外学習」微減についてはコロナ明けによる部活動活発化の影響もあるだろう。進路意識も含めて低学年の状況について分析と改善が必要。進路希望が持てるようになると授業外学習も増加するのではないか。
3	□現状　基本的な生活習慣、学習への姿勢は概ね良好である。校則、校内外マナーなど身近なことを自らの問題として考えるとりくみが始まっている。 □課題　SNS 等との向き合い方が未熟な生徒が少なくない。それを踏まえて、生徒間および大人も含めたコミュニケーション促進の取組を進めること。また、成人となる自覚を促すこと。	・コロナ後の学校生活の様式を前提として、体育祭･文化祭・修学旅行等の学校行事および、部活動等の適切な実施、両立。 ・行事･部活動動等を通じてコミュニケーション促進、考える力の育成、心のケア実施。	･「コロナ禍」で不十分であった人間関係の構築を目指して、行事やHR活動、部活動動を通じたコミュニケーションをさらに進めることに取り組む。 ･学校生活のあらゆる場面で規範意識を育てる。特にSNS等、ネットに関するトラブル防止などをはじめとして心のケアに留意した教育活動をすべての場面で進める。 ・生徒総会、「未来を語る会」の運営・学校評価懇話会への参加を通して、全校生徒が身近な校内課題を自分たちの問題として捉え、意見を集約し学校生活の向上に役立てる。	・安全に配慮しつつ、学校行事、部活動動を運営し、コミュニケーションが進められたか。 ・ネットトラブルを防止できき、かつ生徒による取り組みが進んだか。 ・以上について、アンケートや教職員個々の生徒との関わりについて情報共有の状況から評価する。	各行事や部活動はコロナ前の状況に戻りつつあり、コミュニケーションできるようになって生徒の行事・部活動を通じての充実感も微増の八割以上となっている。 チャイム授業等授業規律はじめルール・マナー遵守の意識は全体的には高く見られる。ただし、一部にはSNSトラブル経験のアンケート回答も数％あった。これには、県警の担当による講演会を開催し啓発を行ったり学校評価懇話会等での議論など課題の共有を進めた。 また、それを経て生徒会の生徒から全校生徒へ働きかける動きも出てきている。	A	コロナ後、行事・部活動等の活動は回復してきているが、コミュニケーションの質量の回復や新たな展開には至っていない。人間関係に悩んだり個々には複雑な課題を抱える生徒もおり、少ないがSNSトラブルもあるのが実態。 行事・部活動の活発化を図りつつ、教職員間の連携、生徒会をはじめとする生徒組織との意見交換や個々の生徒への支援などをきめ細かに行っていく。	コロナ後行事・部活動などへの積極的なとりくみがコミュニケーション向上、規範意識醸成につながったと思われる。ただし、SNS等は進んでいるが直接のコミュニケーションが不足している現状はあり課題である。SNSトラブルについて保護者が認識できていない状況がアンケートに10数％あり、家庭内会話不足改善に学校・家庭合わせてとりくむべきである。 生徒組織と学校職員の対話を尊重しておりコミュニケーション能力向上や主体的に考える力の育成につながっている。
4	□現状　保護者、中学生、地域への情報発信は ICT も活用して積極的に行い、学校見学会等も感染対策を講じて実施。 入試志願者数は回復傾向。 □課題　入試志願者増の対策。 コロナ禍でのコミュニケーション不足を補うPTA活動も含めて、コロナ後の対応を模索する必要がある。	・学校説明会･見学会等を通じて、中学生、保護者、地域の本校理解の促進。 ・保護者・教職員のPTA活動への関心向上と参加の工夫。	・コロナ対応を踏まえつつ、中学校・塾への学校説明、入試説明などを広く丁寧に行い参加者を増やす。ICTも活用して情報発信を積極的に行う。特に、よく利用されているホームページのさらなる内容充実を図る。 ・PTA役員や保護者の活動の経済的・時間的負担軽減を工夫する。PTA活動について職員で情報を共有する。 ・学校評価に関わって、関係者からの情報・意見等の集約方法等の工夫・改善を図る。	・学校説明会･見学会等への参加者数。 ・生徒・保護者、外部の意見等を把握し、ニーズへの適切な対応と支援ができたか。 ・以上についてアンケート、諸会議の協議を通じて評価する。	彩の国進学フェアが復活し、300組参加。引き続き、塾等外部説明会、学校説明会、部活動体験、学校公開、にとりくんだ。学校紹介動画、行事の様子の迅速なアップでは質量増。10月現在の希望状況は引き続き良好。 保護者アンケートから本校の情報発信に保護者も85％以上肯定的であった。また、本校重点目標理解、PTA活動や地域の信頼について、八割以上肯定的回答。 PTA活動もコロナ前に戻り、役員を中心に積極的にとりくまれた。	A	引き続き入学希望者の増加策について検討が必要である。 保護者アンケートでは概ね肯定的だが、一部厳しい指摘もある。真摯な受けとめとともに、さらなる学校・保護者の相互理解も必要。 保護者のPTA参加意欲向上につながる活動形態の検討、教職員のPTA活動理解の推進が必要。登校指導、強歩大会への役員参加や体育祭･文化祭への保護者来校などを活かす必要がある。	積極的情報発信が希望者増につながっている。特にSNSやHPを活用してきめ細かな発信を求めたい。また、生徒・保護者一体となって地域活動にとり組むことも必要ではないか。 また、学校アプリの活用などを通して、教員と保護者の相互理解と協力を進めることが重要。 PTAの活動理解も必要である。